

座光寺 19地区探訪⑦ 欠野



信州飯田

座光寺便

麻績の里

2015.11
No.19
欠野号

麻績の里 座光寺便 欠野号

平成27年11月発行 ■麻績の里ふるさと応援倶楽部(飯田市役所座光寺自治振興センター内) 長野県飯田市座光寺2535 TEL 0265-221401

ふるさと応援倶楽部の取り組み その① アクティブ座光寺in渋谷



メンバーは得意の分野やネットワークを活かして活動を展開し、地域を盛り上げています

11月2日・3日、東京都渋谷区の代々木公園で開催された「渋谷フェスティバル」に、40代の若手ホープである「アクティブ座光寺」(代表 棚田健治)が飯田市の代表として参加しました。これは昨年の「夢を語る会」より提案された。若者のチャレンジできる場の具現化で、ふるさと応援倶楽部が飯田観光協会と協力し活動を応援しています。

2年目の参加となる今年には「座光寺を売る」ことを目標に、地元特産物の販売やPR活動に積極的に取り組んでいます。



組まれました。また東京在中の仲間も駆けつけ、飯田ブースを多めに盛り上げ、「若者による都市交流」にまで発展することができました。

棚田健治会長は「アクティブ座光寺は行動力と若さが強み。個性はバラバラだが団結力は抜群なので、これからの活動に注目して欲しい！」と意気込みは十分です。

応援倶楽部で提供した、チャレンジできる場は、彼らに大きな手ごたえを与え、活動の糧となっています。



昭和50年代に造成された、元善光寺駅分岐の専用線団地。写真右手のガードレールに沿って線路が延びていた。

欠野の地名は江戸時代の組名に由来します。地名は地形や土地の様子に関係しているとされますが、欠野は欠野沢川の浸食により、地区の東南部に窪地がみられます。「野」の一部に「欠」があることから「欠野」と考えられますが、古い史料には「掛野」の文字も登場し、元はどちらであったか判然としません。

欠野も他の地区同様、明治期以降は桑園から水田へと移行してきました。昭和40年代に鉄道の引き込み線が敷設され、50年代末には座光寺バイパスが開通します。周囲の景観もこれに合わせて、大きく姿を変えてきました。



ふるさとパック 秋の味覚満載便 2,000円(送料別)



- お申し込み先 座光寺自治振興センター内 麻績の里ふるさと応援倶楽部 (TEL.0265-22-1401・FAX.0265-22-1475) E-mail:zakouji@city.iida.nagano.jp
 - お申し込み締切 平成27年12月20日
 - お届け時期 平成27年12月末
- ※代金は商品到着後にお支払いください。



この広場はかつて周辺の子どもたちの遊び場でした。ヒノキや桜、楓、榎などの大木が自生しており、段丘の下や欠野沢川の側からも斜面を駆け上る小径があい

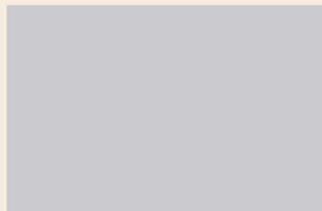


昭和20年代末の山王権現社境内 (下伊那史第二巻より複製掲載)



山王権現社殿

◆ **山王権現社**
 地域の人々から「お山王様」と親しまれてきた山王権現社は、北原家一統の氏神です。境内には山王権現の社殿、北原稲雄翁揮毫の歌碑、小祠3社、五輪塔3基、蚕玉様碑が祭られています。



大正2年喬木線竣工。背後がお山王様の森。下は同じ位置から現在の様子

ました。昭和40年に県道・上飯田線が開設されると、この段丘は掘割で分断されてしまいました。

◆ **専用線団地**
 元善光寺駅分岐専用線団地造成の話が、昭和46年ころから浮上しました。その後漸次各施設が整備され、昭和50年には全施設が完成し開業となりました。当時の座光寺公民館報には、「専用線センター建設の趣旨が地域の経済開発に充分に活かされるよう、運営方法に注目しつつ、その発展を期待する」と記されています。

◆ **座光寺バイパスの開通**

座光寺バイパスは昭和46年10月、4車線の計画として発表されました。その後2車線の計画変更され、工事が進められました。昭和52年1月に始まった用地内遺跡発掘調査は6年の長期にわたって行われ、伊那郡衙の所在を有力にする成果をはじめ、多くの遺跡群が発見されました。座光寺バイパスは昭和59年12月に開通しました。駅前道路の交通渋滞を解消すると共に、バイパス周辺にはさまざまな店舗が集積し、景観は一変しました。



境界目安の石



◆ **最見塚(最後塚)**
 径22m、高さ4.5mの円墳で、円筒埴輪、土師器、須恵器が出土しました。古墳上に植栽された桜(エドヒガン)の古木は、樹齢300年と推定されています。

◆ **境界目安の石**
 欠野簷下に「阿島界まで五百七十間」と印された石塔があります。天竜川に堤防がない時代は、洪水の度に座光寺と喬木の境界線がわからなくなりました。この石は境界の目安となるもので、五百七十間は11030メートルに当たります。

◆ **丹生大明神碑**
 最見塚古墳近くの県道脇に「丹生(にう)大明神」と刻印された石碑があります。丹生大明神は高野山四社明神のひとつで、水神、雨乞いの神とされています。



丹生大明神碑

◆ **専用線今昔 飯田油槽所と専用線団地**



完成当時の飯田油槽所(昭和41年)。右手に引き込みの線路が見える(写真提供:株式会社東洋)

かつて元善光寺駅から南東に、一本の線路が延びていました。右に記した専用線団地です。中央道開通以前の道路事情の悪い時代、大量物資運搬の主役は鉄道貨物でした。この団地にはさまざまな物資が貨物車両により運ばれ、ストック・流通センターの役割を果たしていました。これに先立つ昭和41年、団地の北側に石油の備蓄供給基地として油槽所が完成しています。大きな屋外タンクが林立する様は、当時としては壮観でした。油槽所の操業は平成元年まで続きました。